

# 奨励賞



設計担当者

## 加藤大作

UND一級建築士事務所、東京建築士会

一戸建ての住宅／東京都墨田区

## 斜と構

構造 | 木造軸組み工法

階数 | 地上3階・屋上1階

敷地面積 | 30.19㎡

建築面積 | 19.30㎡

延べ面積 | 58.23㎡

竣工年 | 令和3年



1

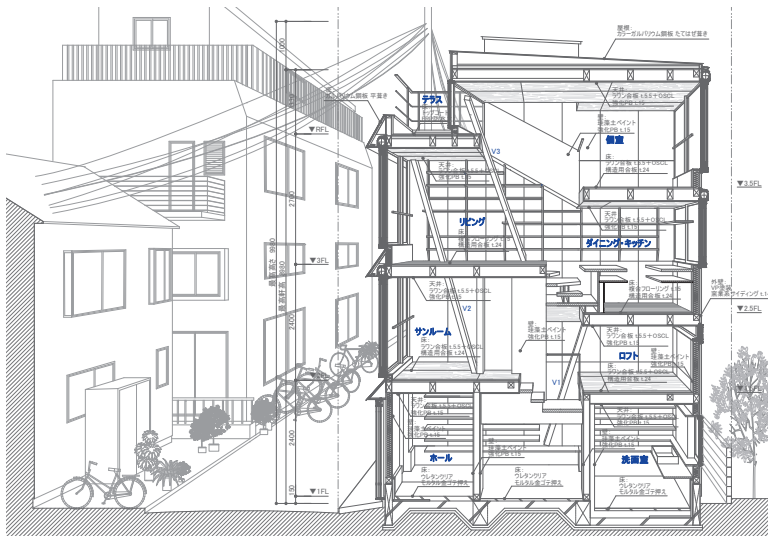


2

- 1 ダイニングよりリビングを見る。立体ブレースがリビング階やテラス階の水平力を負担し、南側間口全面に開口部を確保している
- 2 リビングよりキッチンと個室を見る。建物南北の大開口により開放的な建物を介して前面道路から密集する住宅地上方へ視線が抜ける
- 3 南側ファサード。狭小住宅の類型から狭小間口を最大限に開放し、内部の奥行方向前後に配した緩衝帯により周辺に慎重に参加する構えとした



3



南北（奥行）方向断面パース

## 選評

本建物が建つ東京都東向島の周辺一帯は、幅員の狭い道路に面した小規模な敷地に建物が密集して建つ、いわゆる「密集市街地」で、延焼拡大の恐れや公設消防の活動の困難性等の防災面における課題を抱えた地域である。本建物も、幅員の狭い道路に面し、間口が狭小で奥行も短い敷地のため、それにあわせるための工夫が、建物そのものはもちろん、部材や工事方法を含めた随所に凝らされている。

なかでも特筆すべきなのは、スキップ状に床を設けることで、小規模ながら豊かな空間を持つ住宅兼事務所となっており、周辺の家と床高がずれるため、開口部を開放的なつくりとすることが可能になっている点である。なお、建物の名称にも使われている無垢の木材の斜材（構造材）は、空間の分節を助ける役割を果たして、住まい手の方も生活上の支障は生じていないとのことであった。密集市街地における

法規に対応した防火対策として、正面の開口部に防火シャッターを使っているのも、興味深い工夫のひとつである。

大都市の密集市街地において、建築家ならではの独自性のある提案で、防災や居住環境の課題の解決を図った小規模住宅建築の好例として、奨励賞に相応しい作品といえる。

（後藤 治）